

## 令和4年度第4回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和5年2月13日（月）14：00～16：00
- 2 場 所 辛立文化センター
- 3 出席者 【委員】 石田委員 尾崎委員 柿木委員 金子委員 川地委員  
黒澤委員 小松委員 高田委員 多田委員 筒井委員  
【事務局】 山下市民部長 田村係長 山本主任主事  
【委託業者】 株式会社 ぎょうせい
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議次第 1 開 会  
2 会長あいさつ  
3 議 事  
(1) 第3次さぬき市男女共同参画プラン意識調査について  
(2) 令和4年度事業報告  
(3) 令和5年度事業予定  
(4) その他  
4 閉 会
- 6 配布資料 資料1 さぬき市 男女共同参画に関するアンケート調査報告書【概要版】  
資料2 さぬき市 男女共同参画に関するアンケート調査報告書別冊（自由記述回答集約結果）  
資料3 第2次男女共同参画プランー改訂版ー（現行）について  
資料4 令和4年度男女共同参画推進事業概要  
資料5 令和5年度男女共同参画推進事業予定  
内閣府男女共同参画局 共同参画（特集 女性版骨太の方針 2022 ほか）

### 7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
	＜ 開 会 ＞（14：00）
事務局	本日は、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。只今から令和4年度第4回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会 黒澤会長からご挨拶いただきます。
	＜会長あいさつ＞
事務局	会議の進行はさぬき市男女共同参画推進協議会規則に基づき黒澤会長にお願いします。
会長	まず、会議の公開についてです。本会議は「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき「原則公開」となっています。非公開の案件がない限

事務局	<p>り公開とすることとします。まず、傍聴申請について市民部長から報告してください。</p> <p>現在のところ、傍聴希望はありません。会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。</p>
会長	<p>はじめに、本日の会議についてですが、おおむね2時間程度を予定しております。新型コロナウイルス感染症の影響も鑑み、なるべく時間どおり進めてまいりたいと思います。ご協力よろしくお願いします。また本日も前回に引き続き、議事（1）において説明を聞くため、第3次さぬき市男女共同参画プラン意識調査業務に関する委託事業者「株式会社ぎょうせい四国支社」の担当者に出席を求めています。では、議事（1）「第3次さぬき市男女共同参画プラン意識調査について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1、2、3をお手元にご用意ください。〈概要説明〉</p>
ぎょうせい	<p>〈資料1～2説明〉</p>
会長	<p>今の説明について質問やご意見はありませんか。</p>
委員	<p>資料1の2ページについて、中学生の結果がほかとは違って平等意識が高く出ているのはなぜか。学校教育か、実体験なのか。</p>
ぎょうせい	<p>いろいろな考え方があると思いますが、まず一つには、中学生は社会に出る前の段階で学校など限られた範囲で生活しています。学校教育における平等意識が高いため、中学生の平等意識がどの項目でも高くなると考えられます。その中学生が高校生、大学生、社会人となっていくと、市民のような結果に変化する。中学生の平等意識を維持できるように、どのようなことができるかを我々大人が考えていくべきだと思っています。</p>
委員	<p>同11ページの家庭生活についての「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」の中学生の割合もほかより少し高いが、その考えも維持すべきなのか。また、数字としては表れているが、その中に込められた思いがわからないので、資料として使うのは難しいように思う。</p>
委員	<p>同17ページの選択的夫婦別姓（別氏）制度についての教職員の割合を足すと100を超える。</p>
ぎょうせい	<p>四捨五入しているため、合計が99.9や100.1になる場合もあります。1ページの【報告書の見方について】にも記載しています。</p>
委員	<p>同2ページについて、過去を振り返ってみると中学生の頃は男女差別などあまり感じなかった。大学に進学して就職活動の際に、求人が男子のみとされていたり、就きたい仕事に女性というだけで門前払いを受ける一方で、自分よりも成績がよいとはいえない男子が就職できた。そのとき初めて男女での扱いが違うことを知った。そういった経験から、中学生で男女平等について意識しているのは相当辛い思いや経験をしている方ではないだろうか。同11ページについても、自分だけかもしれないが、若いときは両親を見ていて結婚には否定的だったし、子どもを持つことは考えられないと思っていた。そういう意味で、中学生のときの感覚はそのうち変わってくるのではないかな、とも思う。中学生、高校生頃までは、親の考え方に影</p>

	<p>響されやすい、と感じたことがある。教師をしていた時代、部落問題について教えても「でもうちのおばあちゃんはこう言っている、お母さんはこう言っている」などと話す子どもが一定数いた。家庭から受ける影響による数字もいくつか表れていたように思う。</p>
委員	<p>未来を担う子どもたちがよい考えを持っていることがわかった。一方で、結果を今の施策にどう生かすかが大事であると思う。あるテレビ番組で、17、18歳の子ども「将来結婚して、子どもを持ちたい」と答えた割合は46パーセントだと言っていた。子どもを持ちたくない理由としては「子どもができると生活に困る」「奨学金の返済がある」などだった。日々子どもたちが触れるのは、戦争や詐欺、殺人、奨学金で自己破産、給料は上がらないのに物価が上がり生活に苦しんでいる状況などについての報道だ。また、私が無料でやっている塾には、家でおやつを食べられない、食事1日に1回食べられればよい、給食が頼り、という子どもが半分以上いる。課題が多すぎて、どこから手をつけていったらよいか。少子化問題にはいろいろなジレンマがある。</p>
会長	<p>では次に、資料3について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局、ぎょうせい	<p>&lt;資料3説明&gt;</p>
委員	<p>意識調査の結果や、今の説明などを聞いて、例えばこういう部分が気になった、こういう観点を盛り込んだらいいのではないかと、皆さんから来年度策定に向けての意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>結婚すべきかどうか、子どもを持つべきかどうか、ということについて子どもたちに「なぜ結婚するのか」と聞かれたときに大人はどう答えるのか。家を継がないといけないから、労働力不足だから、高齢者を支えるのに必要だから、どれも違うと思う。もちろん経済的に満たされることで結婚しやすくなるし、子どもも持ちやすくなると思うが、そもそも「なぜ」と聞かれたときにどう答えるのか。例えば法律では、結婚して夫、その後に夫の両親が亡くなると、夫の両親の財産を妻は相続できない。両親、夫の順に亡くなると、妻と子どもは半分ずつ相続できる。こういう現実を見たときに、女性にとって結婚とは何かということになるのではないかと。これまでは当たり前だと思っていたことを子どもに説明するのは、論理をしっかりと考えていないと難しい。夫婦別姓についても、子どもたちからすると、夫婦別姓や夫の姓にしないといけないという議論さえも、何の議論をしているのか分からないような気がする。親戚付き合いについても、都市部ではどうしてもよい感じになっている。世の中が相当変わってきている。施策も必要だが、これまで当たり前だったことについて本質的な部分、どういう意味を持つのだろうかというやり取りをするような時間を持つことも必要なのではないかと。</p>
事務局	<p>今後、策定の過程で、中学生に意見を聞く機会を設けられたらと思っています。その際には聞いてみたいことや確認したいことを委員の皆さんにお尋ねしたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>前回のアンケートで「必ずしも結婚しなければいけないと思わない」割合が7、8割あった。そのときに私もなぜそうなのか興味を持った。上記機会にそういう議論をしても面白いと思う。本質が何か見えるかもしれない。</p>
委員	<p>中学生の自由記述では「男だから」「女だから」などという男女の区別を取り除</p>

委員	<p>いてもらいたいという意見が多かったようだ。家で親から「男の子なのだからしつかりしなさい」「女の子は女の子らしくしなさい」などと言われている場合、まずそこから逃れたいのではと思う。結婚したいかどうか、というところまで考えは至らないのではないだろうか。子どもたちの意識を伸ばすのは家庭生活であり、教育の場であると思う。どう考えて生きていけばよいか、どう意識を高めたらよいかは大人の仕事であり、市の施策が大切だと思う。</p> <p>「なぜ結婚するのか」という話について、私は家庭を作って、癒されたとき、幸せを感じたとき、子どもができたときに生きていてよかったと思った。最近思うのは、人類が誕生して 80 億年くらい経過して、今自分がいるということだ。80 億年の DNA をもらって自分が生きているということなので、結婚は自分の DNA を次世代につなぐことかと思う。自分の肉体がなくなっても、自分の DNA を持った人間がこの世に存在する。夢や希望も大事だが、自分のためだけでなく、人のために志を持って生きる。結婚は自由であるが、個人的には、もし自分の肉体は死んでも次の世代につなぎたいという気持ちがあって結婚をする、と答えると思う。</p>
委員	<p>資料 1 の 18 ページ「市が力を入れるべき取組について」を見ると、子育て支援が求められている。今回の参画プランの中にも子育て支援が入っているが、人が増えていかないと何もできない。一人ではできないことがいっぱいある。社会保障や仕事もそうだ。会社がなくても人がいれば会社を作ればよいが、会社があっても人がいないと難しい。子育て、出生率に力を入れていきたいと思う。以前受けたセミナーで、島根県は出生率及び就業率共に高いと聞いた。40 年前くらいから人が少なくなっているの、男女平等、女性が働きやすいというのを当たり前やってきたからだ、と。様々な課題が同列になっていると思うが、一番の課題は子育て支援だと思う。男女共同参画にもつながると思うので、ぜひプランに入れてもらいたいと思った。</p>
委員	<p>中学生の意見について、成長過程でいろいろな考え方が出てくるので、今の意見が全てではないと思っている。以前「今の若い世代は、『周りのことを気にしなさい、人の気持ちをわかりなさい、思いやりを持ちなさい』』とは言われているが、その人に『あなたの意見はどうなの』と聞くと答えられない人がたくさんいる。本当に大事なことを教えられていないのが現状なのかな」という話を聞いたことがある。自分の意見を持ち、それを言う場がない。日本の社会では、周りの大人がいくつか道を出して、この中から選びなさいというが、そこに無い道もある。今は親や先生世代が若いときになかった職業や道があるのに、大人たちは自分たちが知っている中で選択をさせているようだ。子どもが少し違うことを言うと「違うよ」と塞ぐ。「お前には無理だよ」とひどいことを言う大人もいて、頭ごなしに進路や希望の芽を摘むような発言をする。そういう社会ではなく、知らないことを受け入れられる大人、環境、教育の場が大切かなと感じている。私自身アンガーマネジメントのファシリテーターをしていて「あなたたちの出す答えは全部正解だから、言ってみて」というと、たくさん出てくる。子どもは間違えることを指摘されるのをすごく苦痛に感じているので、方法があれば、もっと自由に発言できるようになる。意見や新しい計画もいいと思うが、そこに隠れている、細かい所で変えられるところがあると、少しでも大人になったときの子どもたちの方向性がいろいろ変わるかなと思う。</p>
委員	<p>資料 3 の 9 ページ 28 番、主要施策 1、2 は、さぬき市が発信してもなかなか結果や反応、受け取り方が見えにくいと思う。3 「配偶者等からの暴力の根絶」については、介入や改善できるのは市や行政だと思うので、ここに力を入れ、PR 方法をもう少し考えてくれると嬉しい。私は子ども服のリユースに取り組んでいる。LINE</p>

	<p>に登録してもらっている 110 人のメンバーのうちほとんどが女性。DV相談週間などのときは相談窓口の電話番号を発信している。今はポスターなどが掲示されているが、それではピンとこない。実際に自分も電話したことがあるが、そもそもつながらなかった。また、夕方のニュースではすでに終わったイベントについてしか知ることができない。例えば「来週あります」と告知するなど、頻度を上げてもらえるとよい。また「DV＝暴力」というイメージが強過ぎる。実際は、心理的DVや経済的DV、誰と連絡しているかといった過剰な見張りがある。女性だけではなく、男性にも「そういうことをしていませんか」と告知してもらいたい。女性が男性に「やめて」と言っても全く届かないが、市のような公的な所からだと驚いて、止めようかなと思うかもしれないので、考えてもらえると嬉しい。</p>
委員	<p>資料 2 には、男女共同参画は何をやっていたのかと落ち込むような本音がいっぱい書かれていた。一方、中学生のアンケート結果では、前向きな意見が並んでいて、さぬき市は頑張っていたのかなと感じた。また教職員の意識がぐんと上がっているような気がした。これまでLGBTQ、DVについて、今一つピンとこないというアンケート結果だったような記憶があるが、今回は実際に人を知り、視点を変えたことによって、いろいろなことが見えてきたのかもしれない。全教職員の意識が変わったわけではないが、意識が変わった教職員がいるということは、子どもがSOSを出しやすい環境が少しできてきた可能性があるのも、すごくよいと思った。また、市民の意識を変えるのはこんなに難しいことなのか、何十年と言いつけて広報や講習もしているのに、結局目にとまらない人にはとまらないし、興味のない人にはスルーされるものだということがはっきりわかった。それならば、今までの広報の仕方では届かない。そもそもの内容が理解できていないため、初めに言葉を見ただけで拒否反応を示している人がいるのかなと思う。アンケート結果をみて、男女共同参画の言葉が難しく、いろいろな解釈の仕方があることから、違う方向で捉えている人がいっぱいいるな、と。根本的なことを理解してもらうには、拒否反応を示した人に直接働きかけるのは難しいと感じた。これからさぬき市が力を入れるべきは若い人ではないか。若い人たちが正しく学んでくれることによって、ひょっとしたら祖父母世代の発言に対し、若い人が「それは違うよ」と言ってくれるかもしれない。また身内からの言葉で「あれ？違うこと言ったのかな」と思い直してくれるかもしれない。アクションするとしたら、これが一番では。「若い人」、というのは、学生ではなく働いている人や子どもを育てている人のことだ。学校の先生も研修があるからこそ意識が変わってきたと思うので、若い人たちが働く職場でも常に研修が必要だ。例えば母親が最初に接するのは助産師だが、残念ながら男女共同参画の感覚を持っておらず、学ばずに仕事をしている人もいるようだ。助産師として、アドバイスのつもりなのだろうが、初めての育児に精一杯の母親を苦しめる一言を発してしまったりする。特に子育て支援の関係者は研修を頻繁に受けてもらいたいと思う。男女共同参画から、子育てからいろいろな方向から言っていけないといけないと思った。</p>
委員	<p>私は 40 代半ばで小さい娘がいるので、今の意見に「なるほど」と思った。子育てしていると栄養士や保育士などと会うが、私より上の年代の人は、こちらがびっくりする程、昭和の子育ての感覚で話をしてくる。どうしてかと思っていたが、新しい考え方や情報に触れることがないからなのだ、と今感じた。平成生まれのお母さんが令和時代の子どもを連れて行く講習会や栄養相談で、上から目線で昭和の子育てを語るという人も結構多いのではないか。その人が役所の人だったりすると、お母さんたちも心が折れて、次からは栄養相談に行かないとなってしまうので、よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>これまで子育て支援や学校教育、広報などの話が出ました。伺っていると全部つ</p>

委員	<p>ながっているように思います。ほかにありませんか。</p> <p>資料2の市民の声には目を見張るようなものがたくさんあった。男女共同参画を含めて住みやすいさぬき市を叫ぶ20代のお母さんや40代の人。若い世代が家を建てようと思っても、小中学校が全て統合され、近くに学校がなくなりスクールバスで通学しなければいけないとなるとどうか。これ以上小中学校の統合をしてほしくない。高校も統合されるので、身近な所に施設がない悲しい状況になっている。子どもたちが遊ぶ公園もない。遠い大串半島の辺りよりも、津田町の道の駅をもっと発展させてほしい、もう少し市民の声を聴いてほしい。発展的な、こうすればさぬき市がよくなるのではないかということ、どの年齢層も叫んでいたように思う。市民の声には、施策に変えていくべきものがあるように感じた。大川や津田は特に人がいなくなっているので、若い世代が家を建ててくれるような形をはじめ、市民に力を与えるような施策をもっと考えてほしいなど思っている。</p>
委員	<p>自由記述の意見はすごく貴重で、関心がないとここまで書いてはくれない。適当に丸を付けて出そうではなく、ちゃんと文章化して答えてくれるということは、その人がしっかり感じ考えてくれているということだ。また妊娠が分かった途端に嫌な顔をされて、作業がなくなる、手当の申請などのリスクを負った、ボーナスを減らされたなど、今の時代ここまであからさまにするのかという記述もあった。結構厳しい意見もあった。さぬき市では子どもを生んで子育てしにくいというもので、他県と比べてという意見が今もあるというのは残念な気がした。そういうことについて実際はどうなのかを確認して改善していけたら、書いた人もよくなったと実感できると思うので、もっと応援しよう、関心を持とうという気持ちになってくれるのではないかと感じた。</p>
委員	<p>育児休業や介護休業もキーワードに挙がっている。利用しにくい習慣があるという答えもある。男性の育児休業取得者が増え、制度をどんどん変えようとしている雰囲気があるのだが、四国内の労働組合でコミュニケーションを取ると、制度があることを知らないし、そもそも有給休暇すら取れないという話をよく聞く。会社内での取組も必要だが、行政はそういった知識がたくさんあるので、行政と企業と連携して進めていけたら、と思う。私も一緒にやっていきたい。</p>
会長	<p>情報が届いていないところと連携、というのもキーワードなのかなと思います。</p>
委員	<p>13の施策体系の中で、女性活躍を推進することについては、育児休業や介護休業が大事だ。体系的に実施できる社会になると同時に、学生時代にもう少し専門的なスキルを身につけることも必要だ。その専門的なスキルを持っている人が、結婚や子育てでスキルを生かせない、ということにならないよう社会制度の推進を図る。大学に進学するときに専門性のある知識を学べる選択ができるようにしないといけないことと、どんな施策体系でやっていくのかを同時進行で進めなくてはならないが、どこに重点を置くかをイメージする必要がある。有給休暇が取れない問題については、そういう会社は先が長くないと思う。「今はいくらでも働く所があるので、そこを見切っていい所に行きなさい」だ。今は採用できないどころではなく、現在働いている人が辞めていくのをどうやって止めるのかという時代が変わってきている。能力に男女は関係ないが、今の社会は女性にスキルを学ばせていない。その問題から、女性活躍推進においては、専門性のある知識を学んで卒業した人に社会が開けているということ、今働いている人が休暇を取りやすくなるワーク・ライフ・バランスが整っている社会になることで先が開ける。将来的には、そういう会社しか選ばれない。今の学生はとてもしびアで、ブラックな会社は選ばない。つまり学生時代に働きやすい会社は探せばあるということ根付かせるとよい。現実的</p>

	<p>な教育、生々しいようなことをドラスティックにやれば、会社側にも根付いていくのではないかと。経営者の立場でそんなふうを感じる。</p>
委員	<p>私もそのとおりだと思う。企業も人も一緒に成長していくことが大事だと思う。島根県ではそういう会社は全部無くなった、と。女性をどんどん採用しない会社は人が採れず潰れていったようだ。我々が会社で女性だけにアンケートを取ったり女性活躍の話をする、女性側が「何で女性だけなのか」と怒る。この問題は女性だけの問題なのだろうか。例えば給料が安い、なかなか昇給しないというのは、女性だけの問題なのかどうかというと、そうではない。男性もそうだ。少なからず昔の慣習などで「女性が」というのが一部残っている話も聞くが、そこは間違いなく止めないと駄目だろうし、今後慣習などを拭いながら、女性がどんどん活躍できるようにしないといけない。まず男女関係なく多様性の中で雇用を進めるのが一番いいのではないだろうか。</p>
委員	<p>世の中は変わってきている。「課長に」と言っても「やりたくありません」という選択肢が出ている。収入が上がるとしても「結構です」と断られることもある。これからはマネジメント能力を発揮して生きるのか、個人の専門能力を発揮して生きるのかという選択になってきている。専門能力で生きる人は、頑張れば年収 1,000 万円以上になる時代だ。学生が専門能力を高められるようになる教育の在り方が大事になってくると思う。</p>
会長	<p>ありがとうございました。意見交換をここまでとしたいと思います。事務局は、アンケート結果や今の委員意見を踏まえ、策定に向け引き続き作業を進めてください。次に、議事（２）「令和４年度事業報告」及び議事（３）「令和５年度事業予定」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>&lt;資料４、５説明&gt;</p>
会長	<p>続いて、議事（４）その他について、何かありますか。</p>
事務局	<p>&lt;来年度協議会について説明&gt;</p>
会長	<p>事務局から説明がありました。何か質問などはありませんか。</p>
委員	<p>&lt;質疑なし&gt;</p>
会長	<p>本年度の協議会はこれで終了ですが、来年度はいよいよ本格的に第３次プラン策定が始まります。皆さんには引き続き、ご協議いただけたらと思います。次回の会議は、５月頃となる予定です。事務局より追って案内しますので、よろしく申し上げます。最後に山下市民部長からあいさつをお願いいたします。</p>
	<p>&lt;市民部長あいさつ&gt;</p>
会長	<p>本日も活発な議論をありがとうございました。以上で、令和４年度第４回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。</p>
	<p>&lt; 閉 会 &gt; ( 1 6 : 0 0 )</p>